

# 後期基本計画の策定にあたって

## 1 後期基本計画策定の趣旨

第8次大和市総合計画は、将来都市像\*に「健康創造都市 やまと」を掲げ、平成21年4月にスタートしました。このうち、基本構想は計画期間を10年間とし、将来都市像の実現に向けた市政運営の大きな方針を示しています。

また、基本計画については計画期間を5年間とし、基本構想に沿った目標と、それを達成するための施策の方向性などを表しています。

この基本計画が平成25年度をもって終了することから、これまでの施策を検証、評価し、その過程で明らかとなった課題などについての的確に対応するため、今後5年間における施策の方向性などを示す後期基本計画を策定することとしました。

---

\*将来都市像……目指すべきまちの姿を端的に表現したもの。将来の街づくりの意思を内外に示したものです。

## 2 総合計画の構成と期間

第8次総合計画は、大和市の将来都市像とそれを実現するための長期的な考え方を示す基本構想、これに基づいて施策の方向を示す基本計画、さらには、具体的な事業を盛り込んだ実施計画の3層構造で構成します。

また、社会の変化に迅速かつ柔軟に対応していくためには、長期的な展望を持ちつつ、できるだけ現実性のある計画期間を設定する必要があり、第8次総合計画では基本構想の期間を10年、前期、後期の基本計画をそれぞれ5年としています。

実施計画の期間は3年とし、毎年見直しを行います。

### 基本構想

本市の将来都市像とそれを実現するための長期的な考え方などを示します。

10年間

5年間

### 基本計画

基本構想に掲げた目標を実現するための個別の目標やめざす成果などを示します。

3年間

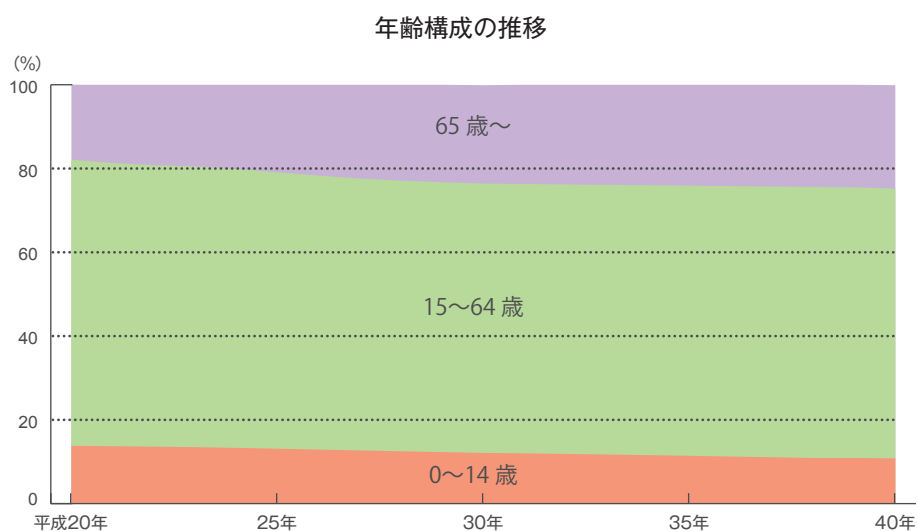
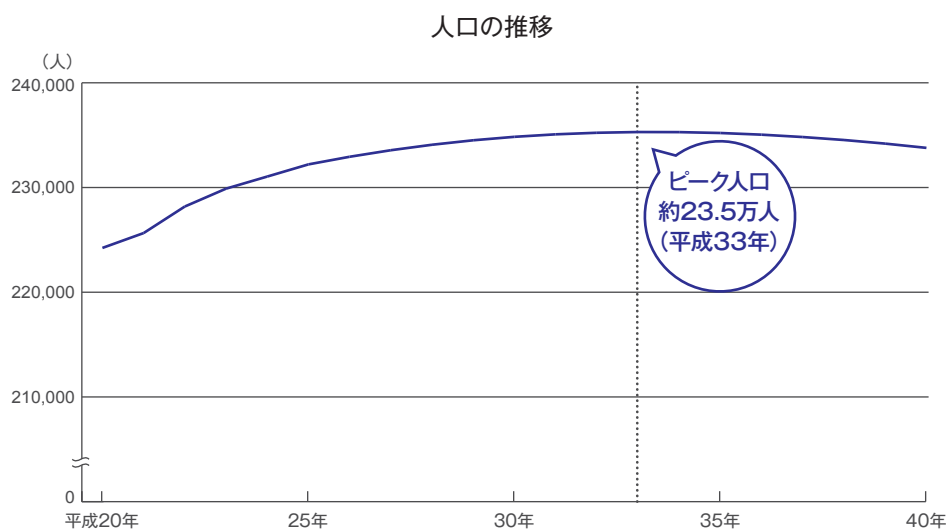
### 実施計画

めざす成果を達成するための施策の展開と具体的な事業を示します。

### 3 人口の推計

大和市の総人口は、今後も緩やかに増加するものの、後期基本計画期間内に大きな変動はありません。平成33年に人口のピークを迎えた後、減少傾向に転じますが、しばらくの間は23万人台で推移していきます。

また、少子高齢化の傾向が続く中で、総人口における年齢別の構成は、0～14歳の割合が減少する一方で、65歳以上の割合が増加していくと予測しています。



# 4 まちの構造「3つの軸」と「3つのまち」

## 1. 3つの軸

大和市は、市の中央を南北に走る鉄道や幹線道路沿いに様々な機能が集積する都市的な軸と、市の東西それぞれを流れる境川と引地川沿いにある2本の自然豊かな軸から構成されており、この「3つの軸」がまちの骨格となっています。

## 2. 3つのまち

大和市は、市街地が形成されてきた歴史や、地域の特性などから大きく北部、中部、南部の「3つのまち」に分けられます。これらのまちは、それぞれのまちの特徴を活かしながら発展を遂げてきました。

北のまちは、1920年代（大正末期）～30年代（昭和初期）に行われた林間都市開発\*と1960年代～70年代（昭和40年代）に行われた田園都市開発\*により生まれた緑豊かな住宅地や、古くからの集落などにより、良好な住環境を保っています。



中央のまちは、1930年代～50年代（昭和10年代～30年代）にかけて軍都計画\*に基づいて市街地整備が進められ、大和駅を中心に様々な都市機能が集まって発展してきました。

南のまちは、1970年代（昭和40年代）から行われた土地区画整理事業\*により生まれた住宅地と昔ながらのまち並みが共存する地域で、歴史を感じさせる神社やお寺が多く、河川沿いには自然豊かな田園風景を残しています。



\* **林間都市開発**……小田急電鉄が計画し、江ノ島線の開通とあわせ分譲を開始した住宅都市建設計画。現在の東林間（相模原市）、中央林間、南林間にかけて広い範囲で開発が行われました。

\* **田園都市開発**……東京急行電鉄が、ロンドンの田園都市構想にならって川崎、横浜、町田、大和の4市にかけて行った大規模な都市開発事業。大和市ではつきみ野（1960年代）、中央林間（1970年代）において行われました。

\* **軍都計画**……第二次世界大戦前、軍需産業の高まりを受けて国が始めた軍都建設計画。大和市では昭和18年から、神奈川県が土地区画整理事業として行いました。敗戦で計画の修正を余儀なくされましたが昭和36年に終了しました。

\* **土地区画整理事業**……道路や公園などの公共施設の整備、改善をしながら土地の区画を整え、土地の利用増進を図る事業で、新たな街並みの形成や既成市街地の再整備などを行うために用いられるまちづくり手法の一つです。